

生の実感への切望が呼び起こされ、直感的で何気ない行動が考察や概念化に先立った、2013年スイス・アルプスでの体験に基づいて作られた作品群の一つ。山中に佇み、そこに吹く風を空瓶の口に当てて口笛のように鳴らす試みるシリーズ。

ある夜、室外で星を眺めていると強い風が吹いた。低い音がして手にしていたビール瓶を通して振動を感じた。

空き瓶を手にアッペンツェルの風景に佇み、風を集めて瓶が音を立てるよう試みるアクトを4回行った。その後、公式記録を基に、私のアクトが行われた場所・時間の風を描写するよう、地元的气象学者に依頼した。

風の生の再演 インスタレーションでは、四つの画像がゆっくりとフェイド・イン、フェイド・アウトしながら、プロジェクターで順に映し出される。三つはアクト前後に現場で撮った画像、もう一つは同じレジデンスに滞在していた芸術家がアクトの様子を撮影したもの。プロジェクターは壁近くに配置し、上方の二角を壁に固定したA4の紙に画像を投射。プロジェクターからの排気と観客の動きにより生じる微風で、画像が映し出される紙が摩く。

動きの言語への置換 アクトの意図と概念を記した説明文と気象学者による風の描写をそれぞれ印刷した紙は、クリップボードに挟み、投射画像近くの壁に掲げて提示。

即興の美学 元々のアクトが行われたときの、本能的で身の回りにあるものだけを用いるという作法を踏襲するため、紙やクリップボード、ストロー(排気を紙へと方向付けるためにプロジェクターの換気口付近に設置)など、インスタレーションに用いられる素材はすべて展示会場で見つけたものを使用した。

地元気象学者による風の描写(抄訳)

2013年7月18日(木)
アッペンツェル・アウサーロデン準州ワルドでは、まず風速約6-11mの北風が吹き、19時までに西、南西の風に変化。19時30分には風速約10mに。現地時間20時20分以降は南から南東の風、21時から22時にかけて最大瞬間風速約13mの風が吹き荒れた。

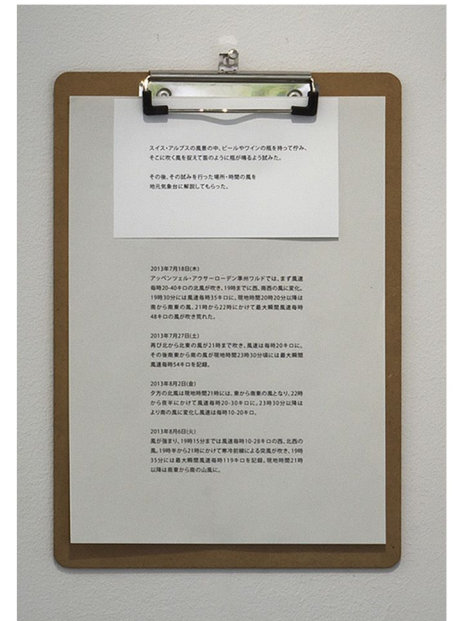
2013年7月27日(土)
再び北から北東の風が21時まで吹き、風速は毎秒約6mに。その後南東から南の風が現地時間23時30分頃には最大瞬間風速約15mを記録。

2013年8月2日(金)
夕方の北風は現地時間21時には、東から南東の風となり、22時から夜半にかけて風速約6-8mに。23時30分以降はより南の風に変化し、風速は約3-6m。

2013年8月6日(火)
風が強まり、19時15分までは風速約3-8mの西、北西の風。19時半から21時にかけて寒冷前線による突風が吹き、19時35分には最大瞬間風速約33mを記録。現地時



(左頁)ストローを添えた換気装置と、画像が投影された紙が揺れる様子(右頁、上から)インスタレーション風景;スライドショーとして投影された四つの画像のうちの一つ;アクトの意図と概念を記したテキストと気象学者による風の描写、それぞれを掲げたクリップボード



Wind Ensemble (in four movements) (四楽章からなる)吹奏楽

2013-2015/2016

アクト + インスタレーション(ガラス瓶 / プロジェクター、ストロー、紙、クリップボード)

アクト: ワルド(スイス・アッペンツェル) / 展示: ポーラミュージアムアネックス(東京)、アーツ前橋(群馬)